2024年度第6回理事会

議　事　録

公益社団法人　日本クレー射撃協会

2024年度　第6回理事会

議　事　録

1．日　時　　2024年12月4日（水）　午前13時00分～午後15時00分

2．場　所　　JAPAN・SPORT・OLYMPIC・SQUARE　3階　会議室8

3．出席者　　出席理事18名、出席監事2名

会　長（議長）	不老　安正（福　岡）	
副 会 長	丸石　博（島　根）	
	夏樹　陽子（　―　）	
	中園　功一（鹿児島）	審査担当理事
専務理事	増田　正起（静　岡）	総務委員長
常務理事	大内　智喜（長　野）	
	清水　光一（本　部）	強化委員長
理　事	大山　重隆（埼　玉）	アスリート委員長
	相馬　正（青　森）	
	原田　光男（栃　木）	
	布野　兼一（長　野）	
	古川　竜則（京　都）	
	長谷川雅彦（山　口）	
	堺　良雄（福　岡）	※WEB
	小川　晶子（　―　）	
	小髙左起子（　―　）	※WEB
	池内　数哉（大　阪）	
	松島　愛（日本ライフル協会）	※WEB
監　事	萩野谷豊光（茨　城）	
	坂本　昭一（佐　賀）	
（欠席理事）	瀧根　隆幸（富　山）	
	ヒ　ロ　ミ（芸　文）	

4．陪　席　　多久和寿稔（競技委員長）　※WEB
中根　逸朗（審査委員長）　※WEB
大江　直之（事務局顧問）
坂本　強（事務局次長）

５．理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数 20 名中 18 名の出席となり、定款第 43 条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立。（出席理事 18 名・うち Web 出席 3 名。欠席理事 2 名）

６．議長挨拶及び議事録署名人確認

不老会長：今期第 6 回の理事会を開催いたしましたところ、本日は師走の大変慌ただしい中にご出席いただき、誠にありがとうございます。今年度最後の理事会となりましたが、9 月の国スポ、10 月の全日本選手権が無事に終了しましたこと、皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

さて、2026 年 9 月に開催される愛知・名古屋アジア大会についてご報告いたします。現在、準備が思うように進んでおらず、清水理事と大内理事が組織委員会に参加し、前に進めていただいております。先月 22 日にはアジアの技術委員長アブドラ氏が視察に訪れ、射場のバックストップの問題。そこから並列で４面の射面があるわけでございます。その中の最終的には決勝を行うとことが今の状況なら駄目ですと。それから観覧席の不足、宿舎の問題が指摘されました。特に宿舎が会場から 1 時間半以上かかることが大きな課題となっております。組織委員会はこれらの問題に対応することを約束しております。

また、先月 30 日にイタリアのローマで開催された ISSF の総会についてもご報告いたします。ロッシ会長ともいろいろお話しをさせていただきました。今回は役員の改正はなく、定款や規約の変更が議題となりました。E スポーツ、E ゲームが盛んになってきたということで特別委員会設立が可決され、ISSF の定款の修正・訂正も満場一致で承認されました。さらに、アジアのサルマン会長と 40 分間の会談が行われ、アジア大会の成功に向けた協力が確認されました。特にホテルの問題が指摘され、組織委員会が対応することが期待されております。再来年のアジア大会に向けて、時間が限られておりますが、皆さまのご協力を賜りながら全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

定款第 47 条の規程により、本理事会の議事録については、議長を務める私と、萩野谷監事、坂本監事、両名お願いいたします。

７．報告事項

報告事項１　競技委員会関係（坂本事務局次長）

まず、公認スポーツ指導員資格についてです。この資格は国体の監督資格に必要で、失効者に対する対応として、再取得が可能となっています。都道府県のスポーツ協会からの通知に基づく講習を受け、日本クレー射撃協会（NF）が定める課題をクリアすることで再発行されます。これまで NF の課題が決まっていませんでしたが、試験問題を作成し、12 月中に準備を整え、J スポとの調整が必要ですが 1 月頃から受講できるよう計画中です。試験は在宅で受けられるようにします。次に、新規受講についてです。新規受講は 3～4 年ぐらい停止していましたが、今年度中に再開する必要があります。共通科目は JSPO のオンライン講座を受講し、専門科目は日本クレー射撃協会が設定する講座を受講することになります。これについても 12 月中に問題を確定し、2 月下旬までに受講できるように進める予定です。

次に来年度の全日本の出場権（QP）についてですが、例年通り、種目ごとに QP の人数を割

り振っています。今年の佐賀のスポーツ大会で入賞した8名と、全日本でファイナルに残った6名、来年度の本部公式大会で上位に入った選手が2025年度の全日本のQPを獲得します。ジュニア・オリンピック・カップは上位3名から来年度は1名に変更し、全日本女子とシニアにそれぞれ1名ずつ枠を割り振ることになりました。これにより、トラップで70名、スキートで41名が参加できる予定です。

不老会長：ただ今の報告事項について何かご質問等ございませんでしょうか。
では、報告事項1についてはご了承いただいたものと確約いたしました。

報告事項2　審査委員会関係（坂本事務局次長）

審判員講習会について、これまでに4つのブロックで開催されました。前回の理事会以降では、10月27日に山梨県で関東ブロックの講習会が開催され、20名が参加しました。この講習会から基準を設け、基準に達しなかった人には追試を行うことにしましたが、関東ブロックでは追試者はいませんでした。

11月17日には、中国ブロックで島根県主催の講習会が行われ、36名が参加しました。模擬銃を用いた実践的な講座も行われ、参加者から多くの質問が寄せられました。中国ブロックでは8名が追試を受け、全員が合格しました。

今年度中に東海ブロックでも講習会が開催される予定です。他の地域でも講習会を開催していただけるとありがたいですが、どうしても今年度中に受けたい方は東海ブロックの講習会に参加することが可能です。

不老会長：ただ今の報告事項について何かご質問等ございませんでしょうか。
では、報告事項2についてはご了承いただいたものと確約いたしました。

報告事項3　強化委員会関係（大江ハイパフォーマンスアシスタントディレクター(HPAD)

今回の報告は主に4点あります。

まず、強化委員会のメンバー追加についてです。強化委員長の清水委員長に加え、片岡さんと長谷川さんの常任委員が先の理事会で追加承認されました。また、私、大江もアシスタントディレクターになりましたので、常任委員として追加したいという強化委員会のリクエストがありますので、ご了承いただければと思います。

次に、第3回強化合宿岡山の報告です。こちらはヘッドコーチの中山さんが作成したレポートになっていますが、11月6日から8日にかけて岡山で強化合宿が行われ、カザフスタンでメダルをとった選手たちの報告や大江から補助金の仕組みの説明を行いました。2日目は鈴木なつみ先生という方にアスリートのコンディショニングに関する講義をいただいて「アスリートのコンディショニング」ということで、特に女性の場合には生理の問題がありますので、他のNFのオリンピック選手とかはどういった形でこれを克服したり、改善したりしてるのかっていうことの具体例を挙げながら説明を頂いて、非常に関心深く選手は聞いておりました。それともうひとつ、折原研二選手が栃木県公安委員会の指導員やったりして、いろいろとそういった知識が多いので銃刀法・火取法についてのプレゼンを行い、選手たちの認識を深める機会

となりました。

あとは、今回合宿をやるに当たって常任委員に追加された片岡さんと長谷川さんに合宿に参加いただきまして、いわゆる強化合宿事業をどういうふうな内容でやってるのかっていうのを見ていただきました。それで、強化委員会が抱える課題につきまして、合宿期間中、強化委員会を行い、協議内容といたしましては、今私が言った強化委員会のメンバーの追加。先日ご承認いただきましたアミール杯カタールの派遣。強化合宿＋選考会のハイブリッドでやった場合の経費負担をどうすべきかということも話し合いました。

続いて、ネクスト選手の選定についての議論がありました。現在、ネクスト選手はスキート女子の鈴木未来乃さんのみで、選手層が非常に薄い状況です。協働コンサルというJOCとJSC、あるいはスポーツ省で構成されている、いわゆる上部団体の協議会があるのですが、そこに定期的に私ども呼ばれていろんな質問を受けたりしてQ&Aがあるんですが、ネクストの選手が1名しかいない現状があるので、非常に選手層が薄過ぎると指摘をうけました。ネクストって何っていうと、次なので、ロスオリンピックの次のブリスベンを対象とした選手がこれに当たります。ブリスベンの対象選手が今1人しかいないと言ってるのと一緒なんです。トラップの男子・女子、スキートの男子・女子、あとミックスですね。ですから5種目ある中でたった1人しか対象選手がいない。このネクスト選手をもうちょっと厚くすべきじゃないかということをご指南いただいてるところがあります。これを改善するため、トラップ男女、スキート男女で105点をクリアした選手をネクスト選手として選定することが提案されました。

さらに、アミール杯カタールへの派遣についての報告がありました。前回の理事会で派遣が承認され、8名の選手団が編成されました。一方、一般会員選手については、他のグランプリ大会やオープン大会と同様に、自分で手配して参加する形が望ましいとされました。

あと手話通訳の問題ですね。手話通訳の手配に非常に難儀しております。SDGsではないんですけど、持続可能性に非常に問題があって、これについては検討が必要だということで強化委員会のほうで共有しているところです。

続きましてコーチにつきましても、平日を利用してる関係があるから、自由業の方とかはともかく、サラリーマンのコーチなんかは有給休暇を消化して参加いただいてる実態があります。そうすると、毎月毎月何日も有給休暇消化していくと、最後は有給休暇、日本クレーで全部使い切っちゃったっていうことがあり得ます。ですので、これも改善する必要があるので、どういった対応がいいのかっていうのは、今、強化委員会で検討してるところがありますけれども、強化委員会では、こういった手話の通訳のこと、それと帯同コーチのことをご報告させていただきます。

最後に選考会に関してなんですが、名古屋アジア大会、先ほど理事長から説明ありましたけれども、いわゆる2026年9月には名古屋でアジア大会があります。当然ホストですから、これに参加する選手を何らかの形で選考しなくてはいけないと。あと、加えまして先ほど言ったネクスト選手が薄いという、JSCのコンサル、協働コンサルの要望もありましたので、強化選手の選考も行いたいということでヘッドコーチから原案が出てきて、強化委員会と事務局でもんだりしています。今現在、まだ皆さんのほうに公表できる選考会の内容までには至っていないんですが、あらましだけ簡単に説明します。名古屋アジア大会の選手選考と強化選手の選考につきましては、来年度6回程度の選考会を実施したいと考えております。選考会単体として行うものが3回、それと本部公式に絡めたものが3回の計6回を想定しております。国際大会の派遣も、来年度、アジアショットガン中国とワールドカップイタリア、アジア選手権カザフ

スタンっていう、この3大会に強化委員会としては選手団を派遣したいと思っておりますが、一般の選手が参加するところが今のところ、いわゆる可能性がないという指摘もありますので、選考会で基準点をクリアして強化委員会メンバーになって派遣選手になるという形で、国際大会が行われる前に選考会を実施して、どうぞこの大会に参加を希望する一般の方は基準点にトライしてくださいという形で、一般の方を受け付ける形で、前回の選考会で漏れた方に次のチャンスを与えるということを考えております。参加資格につきましては、アジア大会については全日本選手権に参加した方とか、あるいはランキングを反映したいというふうに考えておりますが、これについてはまだ素案確定しておりませんので、引き続き強化委員会のほうで検討していきたいと思っております。ネクストの選手については、先ほど言ったとおり30歳未満が対象としておりますので、これは今までの選考会もこれからやる選考会も同様にしたいと思っております。それと基準点につきましてネクストは、トラップ男女、スキート男女共に105点ということで統一させていただきたいと思います。

名古屋のアジア大会のほうの選手選考につきましては、実は先日、冒頭、議長から説明ありましたとおり11月の22日にASCのビジットというものがありまして、上部団体のアジア射撃連合の幹部が名古屋を視察されたと。ヘンリーとアブドラ2名がいらっしゃったんですが、これは技術委員長という役職に就いた方です。ヘンリーがピストル・ライフルの技術委員長、アブドラがクレーの技術委員長。技術委員長って聞き慣れないんですけど、うちでいえば競技委員長かな。競技委員長に相当する方です。この方、ヘンリーとアブドラ2人がアジア射撃連合の競技委員長で、TD、いわゆるテクニカルデレゲートとして名古屋アジア大会にASCから派遣されるお目付役に内定している方です。

組織委員会のほうとのペンディング事項が1個あって、本来、各種目、各NF 3名までですので、3名の団体戦もあるところなんですが、組織委員会のほうは、選手の受け入れ方が極端に悪いので、1種目2人までにしてくれないかっていうリクエストをASCにぶつけていました。これにつきましては、そうすると、1種目3名の合計にならないからメダルの数が減っちゃうことになるので、ASCとしては到底了解できない。レギュレーションどおり3名でやれというふうにもめていたんですが、先日のビジットで、3名でやることになった。

大江：ですので、やっとホスト枠が確定したということになりますので、各種目3名を対象とした名古屋アジア大会の選考会にしたいというふうに思っております。選考会の開催要綱につきましては、一番早くて3月からの選考会実施を想定しているので、できれば年内に片を付けて、ホームページ等で公表して一般会員に周知したいと思っておりますが、本日の理事会が、どうしても12月4日の理事会に開催要綱の原案をばんとぶつけるのが間に合わなかったので、大変恐縮ながら、会長、強化委員会、本部事務局に選考会の詳細についてはご一任いただき、選考会の原案が決まったらホームページに貼る前に理事・監事方々に書面で報告させていただきたいと、かように考えておりますので、本理事会でその方向性でご了承いただければと、かように考えております。

不老会長：今ご説明があったわけでございますが、今、大江HPADのほうから出ました、今回のスケジュールの承認ついては、それでいきたいと思いますんで、ひとつよろしくご了解のほどお願いいたしたいと思います。ただ今の報告について何かご質問ございませんでしょうか。では、報告事項3についてはご了承いただいたものと確約いたしました。

報告事項4　総務委員会関係（坂本事務局次長）

まず、総務委員会に事務局のメンバーを追加し、更に丸石副会長を総務副委員長に任命されました。これにより、総務委員会の体制が強化されました。また、事務局の年末年始の休暇は、日本オリンピック協会や日本スポーツ協会と同じ日程で対応することが報告されました。具体的には、12月27日が仕事納めで、1月6日が仕事始めとなります。

次に、警視庁生活安全局保安課が事務局を訪れ、ハーフライフル銃の規制強化について説明しました。ハーフライフルは今後ライフルのカテゴリーに分類され、所持には10年の猟銃経験が必要になります。ただし、特例として市長や知事の承認があれば所持できる場合もあります。例えば、クマなどの害獣駆除を行う場合などです。また、眠り銃の取り消しサイクルが3年から2年に短縮されることも報告されました。

さらに、第5期国民スポーツ大会の実施競技の選定についての説明がありました。1月31日までに書類を提出する必要があり、選定基準に基づいて点数を付けて評価されます。特に女子スポーツの推進やスポーツ医学、ドーピング対策が重要なポイントとなります。国スポ委員会のメンバーを中心に資料を作成し、ワーキンググループを設置して書類作成を進めることが決定されました。これにより、競技の選定に向けた準備が進められます。

普及・振興のシミュレーターイベントについても報告がありました。11月17日に山梨県で開催されたイベントでは、多くの参加者が集まり、クレー射撃のシミュレーターが非常に人気でした。今後も各地でイベントを開催し、競技の普及を図る予定です。

また、スポーツくじの助成事業についても報告がありました。U25の若手育成合宿が11月29日と30日に神奈川大井射撃場で開催され、トラップとスキートの選手15名が参加しました。合宿では、技術指導だけでなく、社会人としての成長を促すプログラムも取り入れられました。今後も全国各地で合宿を開催し、若手選手の発掘と育成を進める予定です。

最後に、大山コーチから合宿の感想が述べられました。金銭的な問題を抱える選手が多く、移動費や装弾代、銃の購入費用などが課題となっています。しかし、選手たちは熱意を持って取り組んでおり、今後もサポートを続けていくことが強調されました。

報告事項その他

アスリート委員会（大山アスリート委員長）

11月20日に競技・審査・アスリート委員長が参加するオンラインミーティングを開催しました。この会議にはアスリート委員会から井川副委員長も加わり、10月23日に行われた第2回アスリート委員会ウェブミーティングで議論された内容を競技・審査委員会と共有しました。これらの意見を今後の運営に活かしていく予定です。

今回の会議では、以下のような議題が話し合われました。まず、トラップ競技における「12秒ルール」の明確化について協議しました。特に、1組5名での競技時や、12秒のカウント開始タイミングを明確にすることが求められています。次に、射順の組み合わせについて議論し、ISSFの国際大会では予選5ラウンドを同じ射団で行うのに対し、国内の本部公式戦や全日本選手権では2日目に組み換えを行うことが運営上の課題となっている点について意見交換が行われました。

また、地方公式戦におけるクレーのセット方法についても話し合いが行われました。特に、距離を測定できない公認射撃場において、どのように適切な距離設定を行うべきかという点に

ついて、改めて確認が行われました。さらに、若手審判員の募集・育成についても重要な議題として取り上げられました。現状では限られた人材の中で運営されているため、公式ホームページを活用して広く募集を行い、集まった人材を国際審判員として育成する仕組みを検討すべきとの意見が出されました。

また、年間活動計画の一環として、普及活動の一環でシミュレーター体験会が実施されています。第1回は8月24日に朝霞市で行われ、第2回は今週末、兵庫県立総合射撃場で開催される予定です。こちらには、アスリート委員会から井川副委員長と大高委員が現地支援を行う予定です。

今回の会議を通じて得られた意見をもとに、今後の競技運営や審査基準の改善に活かしていきたいと考えています。

名古屋アジア大会関係（清水ハイパフォーマンスアシスタントディレクター(HPAD)

アジア射撃連合のTDの方2名が愛知総合射撃場のほうに来日されて視察を行った。まず前回の理事会でも、今現時点のこの大会に向けて準備不足、もしくはこのままでは大会ができませんと話はさせていただいたと思うんですが、今回のビジットでほとんどの問題については解決できる方向性が見いだせたというところまでになっております。

まず1番のところ。これが私の最大の懸念だったところなんですが、大会によって、当然鉛弾を射場の中にばらまくわけですけれども、このばらまいた鉛弾が今後何かの問題、例えば土壌汚染が起きましたとか地下水がどうとか射撃場の下の部落の飲料水がどうのとか、そういったところに何か影響を及ぼすところの責任はわれわれの協会には一切ありませんということに合意いただけますかと。ここの部分が一番気になっていたんですけれども、県のほうから、それは間違いないですと、お宅のNFには一切責任が及びませんというふうな確証、確約を得たので、そこはまずクリアになりました。

次に2番ですね。ここが地表面、これ、グラウンドのことなんですけれども、芝がはげたり、枯れたり、あとはクレーの皿が散乱している。あと、ワッズとかその辺りもたくさん、あまりまめには清掃されていないような状況でしたんで、このままの状況で大会をやらさせていただきたいという要望がアジア連盟のほうに出ていたんですが、これに関しても駄目ですと。きちんとクリーンナップと、あとは視認性が確保できるように緑のシートなのか芝を植えるのか、きちんと選手にとって撃ちやすい環境にしてくださいと。それに対して県が分かりましたと。すなわち今までのプランから変更するっていうことを承認いただいた。それが2番になります。次に第3番。これも冒頭、議長のほうからありましたけれども、愛知の射撃場は、バックストップといって、後ろの背景の部分、特にトラップですけれども、やはりこれも土がむき出しになっている。グリーンのシートは破れている。破れたシートに黒のシートで補修をしている。このままの状態で大会をやらせていただきたいというふうにあったんですけれども、これもきちんと視認性を確保するように緑色のコントラスとで統一しなさいと。それに対して県も分かりましたというところになりましたんで、これもクリアになりました。次4番ですね。これはFレンジって書いてますけれども、タイトルのところに、これファイナルレンジを、大会のライブ中継をやる予定となっておりまして、日本の射撃場多いんですけども、屋根が付いてる射撃場っていうのが非常に多くて、海外だと付いてない射撃場のほうが多いわけなんですが、観客席とかを作った場合に、どうしても屋根がカメラの角度によって映り込んでしまって

選手が見えなかったり、命中・失中の確認すらできないような形もありますんで、ここにいらっしゃる長谷川理事にドローンを飛ばしていただいて動画を撮って、こういう状況だけども、どうだろうかというふうな話をした時に、これも同じようにテクニカルデレゲートのアブドラさんが、いや、これはあり得ませんと。なので、屋根は撤去くださいということで、これも県に承諾いただきまして、対応するという形になりました。

ただ終わった後、じゃあ一般のお客さまが利用する時、屋根ないと困りますよねっていうところについては、今後、愛知県の中根会長をはじめ、協会の方々といろいろ話をしながら対応策については進めていきたいと、そういうふうに思っております。

今回のビジットで一番私がこれちょっと問題だなと思ってるのが次の5番で、オリンピックの時は、やはり東京オリンピックで開催国であったっていうことも鑑みても、ISSF世界射撃連盟のほうが主となって運営の役員をそろえていたと。それに日本の役員の方がお手伝いをするっていうふうなスタンスだったんですけれども、今回のこの愛知2026に関しては、その2026を招致した経緯というのが、県から予算を引っ張るために、今後大会の後には世界大会を招致する計画を積極的に進めていくというふうな触れ込みで引っ張ってきた経緯もありまして、日本に花を持たせるじゃないけれども、日本の役員を主軸とした大会運営をやっていきたいっていうふうなコメントもありまして。具体的にいうと日本の国際レフェリー、それも機能するレフェリーの方を16名から20名ほど準備いただくと。これは結構口酸っぱく言われてまして、先日のISSFの総会、不老会長行かれてますけども、そののちからも私に個人的に連絡があって、実際具体的な数、今現時点でレフェリーとして使える人間は何人いるんですかと。その回答を2月、来年の2025年の2月末までに欲しいと。それが1でも2でも3でもいいんですけれども、まず何人、今現状。英語が必ずできる。これ具体的にいうと、TOEICスコアでいうと650点ぐらいのレベルなんですけど、東京の五輪の時に国際審判の講習会ってやって、私もそれ受講したんですけども、それはあくまでも開催国が東京であったから特例だよと。本来、レフェリー講習っていうのは英語だけですと。なので、その辺りきちんと理解した上で2026の大会には16名から20名用意していただくのが望ましい。それ足りない場合は、アジアのフェデレーション、もしくはIFのほうに声をかけて人を集めなくてはならないので。すなわちこれは、組織委員会で予算を取らないといけない話になるので、2月末日ぐらいまでには数を、実行可能数っていうものを教えてくださいというふうな宿題が出ております。次6番目ですけども、今トラップ、スキート、トラップの機械はLaporte社のものが使われてます。スキートの機械はナスタさんの機械が設置されてます。クレーンに関しては西日本のクレーが使われています。これを全て、2026の射撃場がオープンした時点から全てLaporte社のものにするように、調整をするように指示が出ましたので、この辺りに関しては価格であったりとか、あとは今設置してるナスタさんの機械をLaporteさんに変えないといけないというふうな指示というか、意向が伝えられましたんで、ここについても微調整をしながらになりますけど、進めていくというふうな形になりました。7番目のレンジ測定は、これ記載があるとおり11月の28と29に終わってまして、この測定した時とはまた別件で出てきてるんですが、ちょっと寸法について、図面と実際の寸が、ちょっと誤差があるよねっていうところがありますんで、これは、あす、あさっての2日間でもう一回詳細出しますんで、ご報告のほうは次回の理事会でさせていただきたいと思います。

総括として、元々私がいた時に、増田総務委員長のほうからも話ありましたが、ライフルさんからはだいぶ遅れてたんですけれども、進捗でいうと、ライフルさんの進捗が10とすると

8.5ぐらいまで追い付いたかなと。あとは予算をきちんと付けていただいて、どれぐらいのクオリティーで要望に対して応えていくかというふうな今段階になっています。
大江HPAD：ちょっと簡単に皆さんに説明します。名古屋の愛知県総合射撃場で今こうなってるんですよね。5面あって、左からスキート、スキート、併用、トラップ、トラップなんですね。アジア大会のレギュレーションって4面稼働しなきゃいけないんです。だからここをコンビにします。ここもコンビにします。だからトラップが、1、2、3、4。スキートの場合は、1、2、3、4。これでアジア大会のレギュレーションをクリアしようとしてるんですよ。ここまでいいですかね。それで、この射撃場が、わかしゃち国体の時に造られたから国体規模なんですよね。問題になってんのが、ここは併用だから76メーター・プラマイ・1メーターの実寸フラットが取れてるんですね。ところが、ここは元々スキートだったから、これがこうなってるんですよ。だからここが73メーターしかないっていう話があって、76メーターフラットじゃなきゃ駄目だって言ってんのがASCなんですよ。だからここを掘削しなきゃいけないよねって言った時に、もう山肌になってるから、削るとのり面が崩落したりする可能性もあるということで、実測の必要があるということで11月末に実測をしたのが、11月末です。そしたら73メーターどころか70メーターぐらいしかなかったんだよね。
清水HPD：図面上は70になってるんですよ。
大江HPAD：そう。だから73あるって聞いてたのに実際は70メーターしかなかったんですって。ですので、さらに掘削するところが増えちゃったんで、ここは土木入れる問題になるから、ちょっとペンディングだねって話で今止まってます。なんで、要は最初の仕様から4面稼働に変えたことで出てきちゃった問題っていうことを共有いただきたい。私も協会に長くいて不思議だったことがあるんですけど、愛知県総合射撃場って、できてから20何年、30年近くたってるんですね。ところが鉛弾を一回も回収してないんですよ。県営の射撃場で、僕はあり得ないと思っていてずっと不思議だったんです。そしたら、やっとその謎がちょっと解けたなと思ったのが、ここのトラップ、射面の先側に当然保安距離が必要だから、射撃場の敷地になって公安委員会の許可は取ってるんだけど、ここの青い部分って実は県有の土地じゃないんですよ。地権者がいるんです。地権者が6人ぐらいいるんですって。だから鉛弾がものすごいたまってんですよ、今。だってオープンしてから一回もさらってないんだから。だから、ほんとは環境省の示した鉛対策ガイドラインに沿って定期的に鉛回収をしたいところなんだけれども、地権者がいるから勝手に手付けんじゃねって言われるんですよ。なので、回収したくても回収できなかったらしいんです、今まで。ということがあって、この掘削した場合に当然地権者の了解を取る必要があるから、問題が二重、三重に面倒くさいというところは清水からは話聞いてます。ですので、ちょっとここ、でっかい障害になりそうだなって、
清水HPD：交渉が難航するとかって意味合いではなくて、物理的に今こういうふうな状況になってますと。ここから、当然県の範疇（はんちゅう）の部分なんで、県の方が主導して地権者の方とお話し合いをしなければならない状況になればやりますと。もちろん大会をやるっていうこと、今から会場変えますってわけいかないので、融和的にお話をさせていただきながら、なるべく前に進めるような状況を模索するっていう今状況です。
不老会長：それは組織委員会のほうできっちりやってもらわんと、われわれ範疇じゃないからですね。
清水HPD：そうです。

審議事項１　懲罰委員会・規定、懲罰規定についておよび審議事項２　コンプライアンス委員会の設置について（増田専務理事）
増田専務理事：前回の理事会で配布した資料を基に、各理事が自宅で目を通し、今回の理事会で審議する予定でした。しかし、顧問弁護士であるTMI法律事務所の北村先生から、懲罰委員会がうちの理事だけで構成されるのはガバナンス違反であると指摘されました。JOCの規定によると、懲罰委員会は理事で構成してはいけないとのことです。それと、懲罰委員会というよりは、今の時代の流れっていうのはコンプライアンス委員会だそうです。コンプライアンス委員会をまず立ち上げていただいて、そこで人選していただいて、そのコンプライアンス委員会で懲罰規定を審議していただく。その、まず立て付けでやっていただかないと、このまんま懲罰委員会・規定を理事の参加にしてやることは、ちょっとJOCのガバナンス違反になるんで、そのことをちょっと考えてほしいということ言われまして。ですから10月28日に言いました、例の懲罰委員会・規定と懲罰規定の審議は、まず今回はペンディングをさせていただいて、別件としてコンプライアンス委員会をまず立ち上げるという、まずその段取りをこの理事会で審議していただいて、そのコンプライアンス委員会を立ち上げた後、懲罰規定をその中で吟味していただいてという、そういう立て付けになりますんで、そのところ皆さまご理解いただいて、今からコンプライアンス委員会の上程をしますので、コンプライアンス委員会をつくっていいかっていうこと自体と委員長を私のほうで検討して、不老会長と、それから事務局と検討させていただいたんですが、ご存じのとおり丸石副会長が司法に詳しいので、そういう方に委員長をやっていただくのがふさわしいと思いまして、丸石副会長をコンプライアンス委員会の委員長とする審議をまずお願いしたいと思います。
不老会長：では今、増田専務理事よりご説明があったわけでございますが、いきなり懲罰委員会は駄目だそうでございまして、JOCの方針に沿わないということでございますので、まずはコンプライアンス委員会をつくって、丸石委員長にそこで審議をしていただくというふうに方向転換をさせていただきたいと思いますので、この件についてご意見を賜りたいと思いますが、よろしゅうございますかね。
不老会長：では、増田専務理事のほうからご説明のあったとおり、コンプライアンス委員会を立ち上げ、丸石副会長がコンプライアンス委員会の委員長になることをご了承のほどよろしくお願いをいたしたいと思います。

不老会長が議場に諮り、委員の人選は丸石委員長に一任されることも承認された。

丸石副会長：コンプライアンス委員会の設置の背景には、過去の問題がありました。協会としての規定がなかったために対応できなかった事例があり、公平性を保つために悪い行為には処分を行う必要があると強調されました。例えば、協会のお金を公私混同して使った場合や、不適切な行為があった場合に、協会として適切な処分を行うための規定が必要です。将来的には罰則や資格停止なども含めて議論する予定です。

審議事項３　国スポ委員会規定について
　次に、国スポ委員会規定と委員会メンバーおよび定款の施行についての細則の改正案が議題となりました。坂本事務局長が説明を行い、前回の理事会で国体委員会を国スポ委員会に改称

し、あおもり国スポに備えるための規定を作成する必要があると述べました。基本的には国体委員会の規定をベースにしており、国体の部分を国スポに変更した内容が主な改正点です。

また、定款の細則も国体委員会の設置に伴い変更が必要となり、国スポ委員会が第6条の7項目に復活することが説明されました。国スポ委員会は、国体への参加や競技運営、国体開催準備に関する事項を担当します。

委員会メンバーについては、元々国体委員長を務めていた丸石副会長が委員長に、副委員長には競技担当理事の大内理事が就任します。常任委員には競技委員長の多久和寿稔さん、副委員長の加藤仁史さん、副委員長の秋山哲也さんが選ばれ、事務方として坂本事務局次長が参加します。さらに、国スポに合わせたプロジェクトの設立も検討されており、今後メンバーが追加される可能性があります。

最後に、この規定案と委員会メンバーの承認が求められ、全員の賛成を得て承認されました。

審議事項4　その他

坂本監事：今コンプライアンス委員会っていうのは承認されましたので、それはそれで皆さん委員の方、よろしくお願いしたいと思いますが、前回の懲罰委員会のこのいろんなルールですね。あまりにもガチガチにしてしまうと、これが面倒くさいと、逆に、いう部分もあるかなと。逆に選手が、あまりにガチガチだと萎縮してしまうとかそういう部分もちょっと検討していただきたいなと思いますので、ここで提案させていただいてます。よろしくお願いいたします。

不老会長：今の坂本監事のほうからご意見が出たわけでございますが、これはコンプライアンス委員会でまたそういうことを審議しながらということで進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

丸石副会長：以前、本部公式大会の料金が高いのではないかという話がありましたが、選手には気づきにくいかもしれません。数年前までは大会を開催するたびに数十万から100万円の赤字が出ていました。参加者数は変わらないものの、クレー皿や人件費、審判の旅費などが大幅に上昇しています。大会参加者や理事は、1日12時間働いて7,000円の謝礼を受け取っていますが、これは時給に換算すると非常に低い金額です。

もし大会の規模や内容を維持しながら料金を下げると、商品や賞金、演出、審判の数を減らす必要があります。ここ数年でようやく30万から50万円の利益が出るようになりましたが、物価の上昇により、今後さらに料金が上がる可能性があります。

例えば、飛行機を使って審判を招くと、選手のラウンド代や皿代からその費用が引かれます。ブロック内で審判を確保できればガソリン代だけで済みますが、他のブロックから招くと交通費や宿泊費がかかります。料金を下げると大会の規模を縮小するか、審判の数を減らすしかありません。

今後も物価が上がる可能性がありますが、できるだけ異常な金額にならないよう努めますので、ご理解をお願いします。

＜次回の理事会の日程についての議論が行われました＞
増田専務理事が、ここ数年間で理事会を年 8 回程度開催してきたが、協会の規定整備や運営が落ち着いてきたため、来年からは年 4 回に減らすことを提案しました。具体的には、3 月、6 月、9 月、12 月に開催し、必要に応じて書面承認や臨時招集を行う形にするとのこと。
この提案に対して、理事会のメンバーは賛成し、次回の理事会は 3 月 24 日に開催することが決定されました。

古川理事から、8 月末からの議事録がアップされていないことを指摘があり、一般の会員からも理事会の話し合いや決定内容を知りたいと意見がありました。議事録をダイジェスト版でも良いので公開してほしいと要望があり、事務局が善処すると回答しました。さらに、中山ヘッドコーチのリポートが素晴らしいので、ホームページかザ・シューターズに掲載してほしいとの提案があり、不老会長より本人の承認を得てから掲載を検討すると回答がなされた。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、出席各位への慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。
午後 15 時 00 分　閉

2024 年 12 月 4 日

公益社団法人　日本クレー射撃協会

議　　長＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印
（会長　不老安正　自筆署名）

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印
（監事　萩野谷　豊光　自筆署名）

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印
（監事　坂本　昭一　自筆署名）